



生涯学習だより

令和3年度 第43回「少年の主張」安中市大会 最優秀賞作品

「平和のバトンに願いをこめて」

松井田東中学校 二年 中澤 春陽

みなさんは「SDGsの十七の目標」を知っていますか？「SDGs」とは、国連サミットで決められた二〇三〇年までに達成すべき「持続可能な開発目標」のことです。その十七の目標の中に、「平和と公正をすべての人に」というものがあります。

世界では、今、この瞬間もどこかで戦争が起きています。小さな子供たちも争いごとや暴力で、命や家族、家や財産などをうばわれ、つらく悲惨な思いをしています。もしかしたら今、私と同じ年の子供が、この地球上のどこかで命の危険にさらされているかもしれません。人類は、遠い昔から戦争を繰り返してきました。多くの人に不幸をもたらす戦争が、なぜ、世界からなくならないのでしょうか。戦争を続けていくことを誰が望んでいるのでしょうか。私は、戦争は「死」そのものであると思っています。そう思うようになったのは、小学六年生の夏休みにある経験をさせてもらったからです。

小学六年生の夏休み、わたしは群馬県の代表の一人として平和学習で広島を訪れました。そこで見たもの、聞いたことは、私の想像をはるかに越えることばかりでした。

世界初の原爆が落とされた一九四五年八月六日の八時十五分までまっている時計。この時計を見た瞬間、私は真夏の暑い中、鳥肌が立ちました。この時計は、被爆前はしっかり動いてた皆さんの人に時刻を知らせていたと思います。この時計を見ながら毎日暮らしていた人たちのことを思うと、私は胸が痛み、とても悲しく切ない気持ちになりました。

また、実際に被爆者の話を聞く機会があり、その方は、こうおっしゃっていました。「授業で人を殺す練習をしていたんだよ。」その言葉を聞いた時、私は一瞬、意味がわかりませんでした。皆さんは、そのような光景を想像できますか？私はあまりの衝撃に、夢にまでその情景が浮かんできました。とても恐ろしい夢でした。

さらに、実際に被爆した方々が描いた当時の絵も見ることができました。今生きている被爆者は平均年齢八十歳を超えているおじいちゃんおばあちゃんです。そのおじいちゃんおばあちゃんが描いた力強い絵。それはまるで生き地獄のようでした。水を求めて川に折り重なるたくさんの人たち。この絵は私に何かを訴えかけているようでした。私は強く衝撃を受けこんな光景は、絶対に見たくないと強く思いました。

私は、考えました。この地球上から、戦争をなくすにはどうしたらよいか？そして、今、私達には、何ができるのか？「SDGs」の目標には、それぞれの目標を達成するための具体例も示されています。「平和と公正をすべての人に」の具体例には、「あらゆる場所で、あらゆる形の暴力を大きく減らす」とあります。今の自分の力では、国と国との戦争を止めることはできません。でも、今私が生きている場所で、あらゆる形の暴力をなくすことはできません。

す。小さな取組かもしれませんが、いつか大きな戦争をなくすことにつながっていくかもしれません。

何万人もの何の罪もない尊い命を一瞬にして奪い去っていった原爆。世界唯一の被爆国、日本に生きる私達だからこそ、伝えなければならぬこともあると思います。世界が過ちを繰り返さないように、そして、平和な世界が訪れるように、今、私達ができることをしっかりと行い、平和への思いをバトンのようにつないでいかなければならないと思います。

みなさんも私と一緒につないでいきませんか？

「平和のバトンに願いをこめて」

今年度の「少年の主張」安中市大会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一般の方は観覧できません。